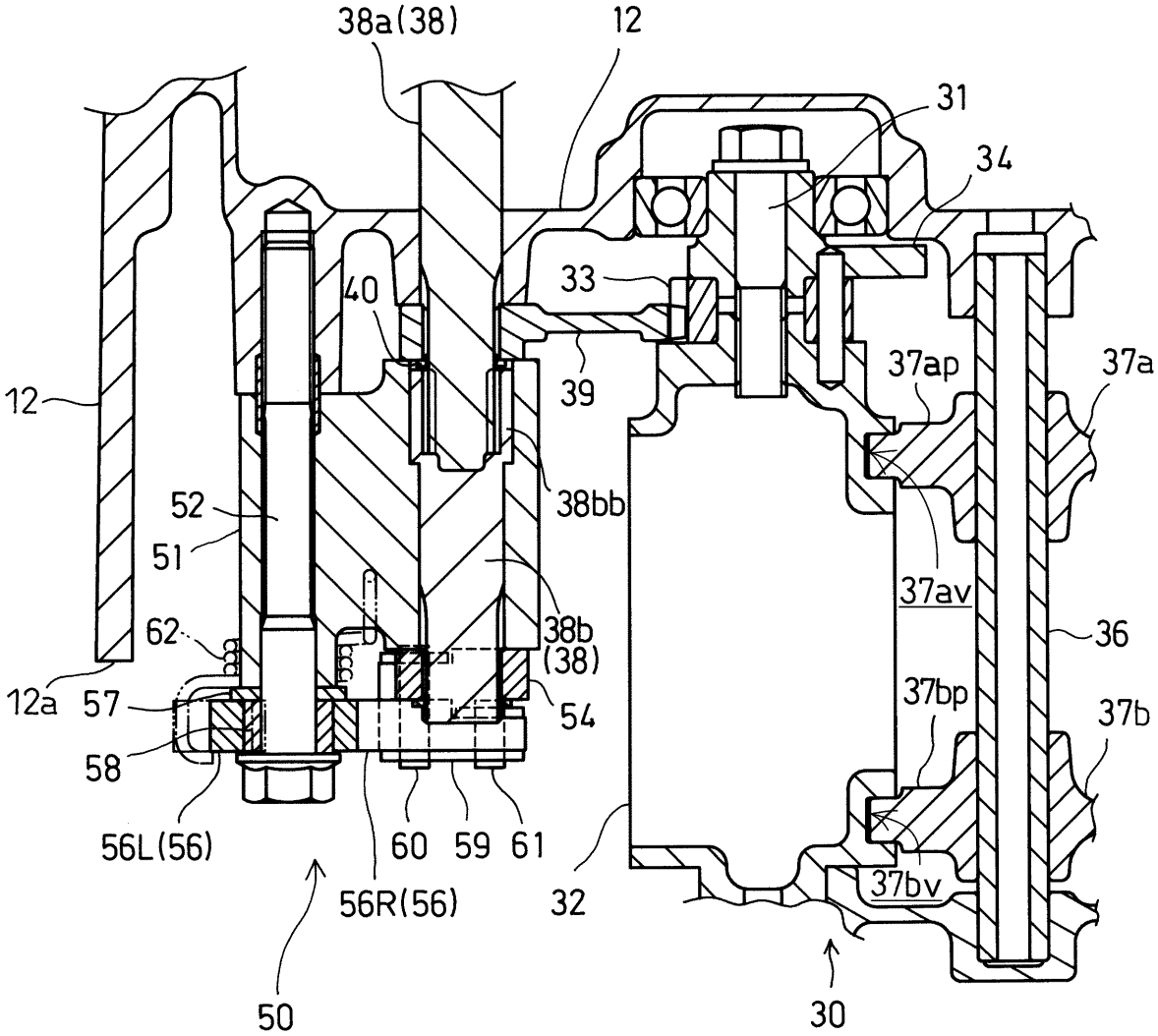
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成21年2月12日(2009.2.12)

【公開番号】特開2007-187198(P2007-187198A)
【公開日】平成19年7月26日(2007.7.26)
【年通号数】公開・登録公報2007-028
【出願番号】特願2006-4091(P2006-4091)
【国際特許分類】
*Ｆ１６Ｈ　63/34　　(2006.01)*
*Ｂ６０Ｔ　 1/06　　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｆ１６Ｈ　63/34
Ｂ６０Ｔ　 1/06　　Ｇ

【手続補正書】
【提出日】平成20年12月18日(2008.12.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
図３は、該内燃機関10の概略後面図である。
該内燃機関10は、ピストンが往復動可能に嵌合するシリンダ13と、シリンダ13に順次重ねられて結合されるシリンダヘッド14およびヘッドカバー15と、シリンダ13の下端部に結合されるクランクケース12とから構成される機関本体を備える。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
シフトフォーク37ａ，37ｂは、フォーク先端をカウンタ軸22に嵌合された摺動部材に係合し、シフトフォーク37ａ，37ｂの基端部から突出したシフトピン37ap，37bpが前記シフトドラム32の外周面に形成されたシフト溝37av，37bvに嵌合している（図５，図７参照）。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
シストドラム37を展開した図である図７に図示するように、シフトドラム外周面には２条のシフト溝37av，37bvが形成されていて、回転角度順にパーキング位置Ｐ、リバース位置Ｒ、ニュートラル位置Ｎ、ドライブ位置Ｄ、ロー位置Ｌがある。
パーキング位置Ｐとニュートラル位置Ｎとはシフトフォーク37ａ，37ｂの軸方向位置を同じくするが、パーキング位置Ｐとニュートラル位置Ｎとの間に、シフト溝37avを屈曲させたリバース位置Ｒを配置することで、シフトドラム37を大きくすることなく、シフトセレクトレバー９の操作がないのにシフトフォーク37ａ，37ｂがニュートラル位置Ｎからパ

ーキング位置Ｐに入るようなことがないように構成している。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３９】
以上のようにシフト変更機構30が構成され、シフトセレクトレバー９の操作でシフトスピンドル38が回動すると、扇形のギヤシフトアーム39が旋回し、シフト駆動ギヤ39ａとドラム従動ギヤ33の噛合いを介してシフトドラム軸31がシフトドラム32とともに回動し、回動するシフトドラム32のシフト溝37av，37bvに案内されてシフトフォーク37ａ，37ｂが軸方向に移動してカウンタ軸22の摺動部材を摺動し、変速歯車列群25の噛合わせギヤを変更してシフト変更がなされる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６１】
そして、シフトセレクトレバー９を、さらに後方に傾動操作してニュートラル操作位置Ｎにすると、図８(３)に示すように、シフトスピンドル38はさらに反時計回りに回動し、シフト変更機構30はニュートラル位置Ｎにシフト状態を設定し、パーキングロックレバー56もさらに反時計回りに揺動して左側延出部56Ｌの爪56ａはパーキングギヤ65の歯65ａから離れ、出力軸24の回転は自由である。
【手続補正６】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図５
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図５】




【手続補正７】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図７
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図７】

